I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 19
Dizzy Gillespie【ディジー・ガレスピー】
～偉大なトランペッター＆バードと並ぶ最重要人物～

写真提供：コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社

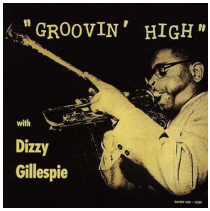
Profile

1917 年 10 月 21 日米国サウスカロライナ州チェロウに生まれる。本名はジョン・バークス・ガレスピー（John Birks Gillespie）。レンガ職人でアマチュアのミュージシャンだった父親の影響で、10 代始めの頃にトロンボーンを吹き始める。その後、トランペットに楽器を持ち替えて独学でコードやスケールを学ぶ。一家でフィラデルフィアに移住した後、18 歳の頃からフィラデルフィアのバンドでプロとして活動を始める。37 年にニューヨークに移り、ロイ・エルドリッジの後任としてテディ・ヒル楽団に参加した後、39 年キャブ・キャロウェイ楽団（キャブ・キャロウェイと喧嘩をし、キャブに怪我を負わせて 41 年に退団）。43 年アール・ハインズ楽団、44 年ビリー・エクスタイン楽団と渡り歩き、その間ケニー・クラークやチャーリー・クリスチャン、セロニアス・モンク等と共に伝説のミントンズ・プレイハウスでビ・バップ誕生の瞬間に立ち会い、チャーリー・パーカーと知り合って共演するなど大きな転機を迎える。45 年からソロ活動を開始し、チャーリー・パーカーと共にジャズ・シーンの中心人物としての役割を果たし、46 年から自身のビッグ・バンドを結成し、大成功を収める。また、アフロ・キューバンに取り組む等、常にジャズの改革に取り組んだ。その後もビッグ・バンドやコンボでコンサートやレコーディングを重ね、第一線で活躍。、「チュニジアの夜」「ソルト・ピーナッツ」をはじめ作曲でも多大な貢献を果たし、晩年は音楽大使としてジャズを世界に広め、若手ミュージシャンの発掘・育成に努める等、ジャズに生涯を捧げた。「ニューポート・ジャズ・フェスティバル・イン・斑尾」でも度々来日し、91 年の来日が最後となった。1993 年 1 月 6 日膵臓癌により死去。享年 75 歳。

DG's Great Album

若きサイドマン時代～ビ・バップ全盛期～ビッグ・バンド期～アフロ・キューバン・ジャズ期など時代毎に数々の名盤・名演を残しているので、幅広く聴いてみて欲しい。

This is Be-Bop ！ ディジーの最高傑作！！



グルーヴィン・ハイ
ディジー・ガレスピー
（コロムビアミュージック：COCB-53891）

ディジー・ガレスピー（tp, vo）、ケニー・ドーハム、ジョン・リンチ（tp）、ハワード・ジョンソン、ソニー・スティット、チャーリー・パーカー（as）、デクスター・ゴードン（ts）、他

1. ブルーン・ブギー 2. グルーヴィン・ハイ 3. ディジー・アトモスフィア 4. オール・ザ・シングス・ユー・アー 5. ホット・ハウス 6. ソルト・ピーナッツ 7. ウー・バップ・シュバム 8. ザッツ・アール・ブラザー 9. シングス・トゥ・カム（他、全 13 曲）

1945~46 年に録音されたディジー率いるコンボ＆ビッグ・バンド・サウンドを織り交ぜたビ・バップの決定盤！ この頃我が日本では太平洋戦争終了直後で、ラジオから「赤い～りんごに～くちび～る寄せ～て～」と流れていた時代に、アメリカのジャズ・シーンでは“ビ・バップの誕生”という革命的な出来事が起きていたのだ。チャーリー・パーカーとの共演による「グルーヴィビン・ハイ」「ディジー・アトモスフィア」「ソルト・ピーナッツ」をはじめ、ビ・バップの名曲たちをディジーのバカテク・トランペットがリードし、後にビッグネームとなるメンバー達もエネルギッシュに迫り来る。ディジーとバードによって開花したビ・バップが、見事な完成を迎えたことを実感する歴史的作品！

ディジーが創始した“アフロ・キューバン・ジャズ”の傑作！

アフロ
ディジー・ガレスピー
（ユニバール・ミュージック：UCCU-3122）

ディジー・ガレスピー、ジェイムス・ノッティンガム、アーニー・ロイヤル、クインシー・ジョーンズ（tp）、ダニー・バンク、ヒルトン・ジェファーソン、ラッキー・トンプソン（sax）、他

1. マンテカ・テーマ 2. コントラステ 3. ジャングラ 4. ルンバ・フィナーレ 5. キャラヴァン 6. チュニジアの夜 7. コン・アルマ

1954 年録音。以前『マンテカ』というタイトルで発売されていたアルバムをオリジナルの形でリリースしたもので、ディジーがビ・バップのスタイルにキューバン・リズムを取り入れて生み出した“アフロ・キューバン・ジャズ”の代表作！ アレンジと指揮はチコ・オファリルが担当し、ディジーの他にクインシー・ジョーンズ を含む 3 人のトランペッターが参加。ラッキー・トンプソン（sax）や J.J. ジョンソン（tb）等も名を連ねている。また、ホセ・マングアル（Bongo）、ウバルド・ニエト（Bongos）、カンディード・カメーロ（Conga）等の存在も際立つ。お馴染みのナンバー「キャラヴァン」「チュニジアの夜」「コン・アルマ」をはじめ、熱演の 7 曲が収録されたジャズ史を飾る歴史的名盤！

ニューポートを沸かせたお祭り男のド迫力ライヴ！

アット・ニューポート
ディジー・ガレスピー
（ユニバール・ミュージック：UCCU-5061）

ディジー・ガレスピー、リー・モーガン、エルミット・ベリー、タリブ・ダウード、カール・ワーウィック（tp）、メルバ・リストン、アル・グレイ、チャック・コナー（tb）、ジミー・パウエル（as）、他

1. ディジーズ・ブルース 2. スクール・デイズ 3. ドゥードリン 4. マンテカ・テーマ 5. アイ・リメンバー・クリフォード 6. クール・プリーズ 7. ゾディアク組曲 8. キャリオカ 9. チュニジアの夜

1957 年 7 月 6 日、真夏の「ニューポート・ジャズ・フェスティバル」のライヴ録音。ディジー率いるビッグ・バンドがエネルギッシュな演奏で会場を興奮の渦に巻き込んだ。オープニングの「ディジーズ・ブルース」からハイテンションで突っ走り、「スクール・デイズ」～ラストの「チュニジアの夜」まで興奮の一枚！中でもリー・モーガンの存在感は、リーダーであり偉大な大先輩でもあるディジーのお株を奪ってしまう程際立ち、ピアノがウィントン・ケリーというのも嬉しい限り。ディジー自身もその司会ぶりや、自慢のダミ声で歌を披露するなど心から楽しんでいる。正に迫力満点、お祭り大好き男ディジーならではのライヴだ。尚、このライヴの模様は映像でも見ることができるので要チェック！

愛らしきジャズマン

初めてその上に折れ曲がったトランペットを咥え、カエルの如くプクッと膨らんだ頬っぺたを目にした時は、何ともいえぬグロテスクな印象を受けたものだが、そのユーモラスな人柄を連想させるエピソードやジャズの楽しさを伝える名演の数々を耳にするにつれ、次第にその頬っぺたにも愛着が湧いて来た。また、歴史的名盤『ジャズ・アット・マッセイ・ホール』の「ソルト・ピーナッツ」などで聴ける独特のダミ声にも、何ともいえぬ興奮を覚えたものだ。私生活では、全ての宗教・人種の融和を説くバハーイ教を信奉し、反人種差別主義者だったディジー。また、敬虔なバハーイ教徒として生涯節制に努めていたため、ドラッグに溺れることなく、若い頃に出会った奥さんと一生連れ添った。現代ジャズ・シーンにも、しっかりとその功績が受け継がれており、我々にはそんな愛すべき男・偉大なジャズマン“ディジー”の名を後世に伝え残す義務がある。

“Dizzy”と呼ばれて

Dizzy とは「目が回る。くらくらする。目がくらむような。目まぐるしい」という意味だが、ステージで魅せるディジーの洒落た仕草や奇抜な服装から、また、その超絶技巧＝“目もくらむほどのテクニック”を誇るプレイから付けられたなど諸説存在する。

あの曲がったトランペットの誕生

ディジーのトレードマークでもあった途中から上向きに折れ曲ったトランペットは、1950 年代半ば頃から吹いていた。そのユニークな楽器の誕生は、予期せぬ事故から生まれた。妻であるロレイン・フィリスという説やパーティーの席のとある客という説もあるが、いずれにしても他人がディジーのトランペットの上に尻餅をついて折れ曲がってしまったのだ。だが、音に問題もなく見た目も良いことからメーカーに特注して愛用することとなった。